

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)		
開催日時		令和 7 年 8 月 2 0 日 (水) 1 3 時 3 0 分 ~ 1 5 時 4 0 分		
開催場所		相模原市役所 第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 8 人 (環境部長、廃棄物政策課長、他 1 6 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可
傍聴者数		0 人		
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		<p>【委員委嘱式】</p> <p>1 開式</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 あいさつ</p> <p>4 閉式</p> <p>【審議会】</p> <p>1 開会</p> <p>2 部長あいさつ</p> <p>3 審議会概要について</p> <p>4 会長及び職務代理者の選任について</p> <p>5 報告</p> <p>(1) ごみの減量化に関する市民アンケートについて</p>		

	<p>6 議題</p> <p>(1) 相模原市の廃棄物行政にかかる現状と課題等について</p> <p>(2) 相模原市一般廃棄物処理基本計画 令和6年度の取組状況について</p> <p>7 その他</p>
--	--

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

【委員委嘱式】

1 開式

2 委嘱状交付

任期終了に伴い、新たに令和7年8月1日から令和9年7月31日までを任期とする委員に対し、市長より委嘱状の交付を行った。

3 あいさつ

市長よりあいさつを行った。

4 閉式

【審議会】

1 開会

定足数を確認の上、開会した。

2 部長あいさつ

環境部長より挨拶を行った。

3 審議会概要について

相模原市廃棄物減量等推進審議会の概要について、事務局より説明を行った。

<質疑事項>

特になし

4 会長及び職務代理者の選任について

委員の互選により大木委員が会長として選出された。職務代理者については、後日指名することとした。

(大木会長) 自治会の会長を務める中で考えていることは、自治会の主な仕事はごみに始まりごみに終わるのではないかというのが、毎年の感想である。そのような中で、廃棄物の減量という市民の皆さまの努力も必要になるような非常に重要な審議会会長のお役目を頂戴したので、精一杯努めたい。

5 報告

(1) ごみの減量化に関する市民アンケートについて

事務局より報告を行った。アンケート回答期限は8月末まで、集計結果については次回以降の審議会にて報告する。

<質疑事項>

(浅賀委員) アンケートはいつ送られたのか。また、無作為抽出の3000人の中には外国の方もたくさんいると思うが、そういった方への配慮的なことはされているのか。

(事務局) アンケートは8月5日に発送し、回答期限を8月29日までとして、およそ3週間ほどの回答期間を取っている。回答期間を長くすれば回収率が上がるというわけでもないので、一度送った後にもう一度お礼状を兼ねたはがきを送り、回答がお済みでない方にはまだ期限内ですのでお答えくださいという案内をしている。

また、高校3年生以上の年齢の方を対象に送っている。対象者の中には外国の方もいるので、すべての漢字にルビ振りをしている。各言語対応まではできていないが、日本語として読める形で外国の方には送付をしている。

(浅賀委員) 無作為抽出というのはAIとか何かそういうものでやるのではと考えた。せっかく何度も検討されて作成したアンケートなので、その3000人のみならずもっと広くいろいろな場で活用できれば良い。家族始め周りにも知らせて、相模原市が全面的に有料化や戸別収集を検討しているということも含めて、このアンケートに書かれているようなことをもっと広めていくことが必要。私もアンケートに回答したいと思った。

(畑野真委員) このアンケートによってどういったアウトプットがあるのか。アウトプットは何を求めているのか。

(事務局) アンケートのタイトルが「ごみの減量化に関する市民アンケート」であり、ごみに関する意識、市民の皆様がどのような取り組みをされているのか、どのようにお考えなのかということをお聞きしている。例えば、アンケート3ページのところでは本市では3Rだけではなくリフューズを加えた4Rを進めていて、このような取り組みを日頃から皆様はどのように心がけていたり、工夫したりしてることはどのようなことなのかをお伺いしている。そして、皆様に浸透していること、まだ足りていないことを把握することで、もっと市として力を入れて取り組んでいくことを市の事業などに反映をさせていくというのがアンケート調査の目的

である。

また、今回は家庭ごみの有料化や戸別収集に加え、今までアンケートで聞いたことがない設問を入れている。10ページの土曜日の収集という働き方改革に繋がる点について、現状、市民の皆様がどうお考えなのか、何を受け止めているのかという意識を把握させていただいて、本市の廃棄物行政の取組の大きな指針となる一般廃棄物処理基本計画を検討する材料として、本市のごみ減量化・資源化に取り組んでいくためにアンケート調査を実施している。

(畑野真委員) 市としての弱点をまず掌握をするのがキックオフであり、その流れの中で市民は何を考えているのかを拾うのがアンケートということであれば、チラシ(資料2-1)の内容と乖離しているのではないかと。

(事務局) 本市のごみの現状と課題は、市民の皆様が知っているようでもしかなかったらあまり知らないことが多いのではないかとという視点で、市としてまずはごみのことを知っていただきたいというのが今回のアンケートに込めた想いである。当然ごみの減量化や資源化は進めていくべきことだが、なぜ進めていかなければならないのかという点について、このチラシを見て知っていただき、それからアンケートを答えていただくというやり方を行っている。

(畑野真委員) 私もアンケートに回答してみたいと思った。そもそも3000人にしか実施しないのであれば、あと残りの70万人に対する周知徹底は必要なのではないかと。

(中島委員) 今回のアンケートについては、本市のごみ問題を市民に知ってもらえるよう啓発することを主な目的として実施すると前回の審議会で聞いている。そのため、最初にチラシで本市の現状と課題、取組等を知ってもらった上でアンケートに答えていただき、今後、市が様々な施策を実施していく上での参考にするものと理解している。

有料化については、賛成反対という問いもあるが、もう少し後の段階で、つまり市民に有料化を検討する必要性を理解していただいた上で答えていただかないと、正しい判断材料にはならないと考えている。こうした懸念があることを前回の審議会でもお伝えしたが、今回のアンケート結果をもって政策決定をしていくということではなく、あくまで啓発目的で調査したいということだったので、了承した経緯がある。啓発目的ということで3,000人は少ないかもしれないが、まずは3,000人からスタートして、これから様々な形で啓発をしていくものと理解している。

6 議題

(1) 相模原市の廃棄物行政にかかる現状と課題等について

事務局より説明を行った。次回の第3回審議会では、本市の更なるごみの減量化・資源化に関する取り組みということで、審議会に諮問をさせていただきたい。答申については来年度7月を目途としている。資料への意見や質問については、8月末まで受け付ける。

<質疑事項>

(荒木委員) 平成28年の収集回数が3回から2回というのは、いわゆる一般ごみの収集ということでよいか。

(事務局) その通りである。

(荒木委員) 先ほどお話しされた戸別収集というのは、いわゆる高齢化によりごみを集積所に持っていく困難を解決するための手段という理解でよいか。

(事務局) 戸別収集については、そのような側面もあるが、まずはごみを減らすという考え方が大事だと考えている。今、高齢者のごみ出しが困難だという話があったが、ごみの集積所まで持っていくことが困難な方々に向けての支援は、まだモデル事業という形だが「ふれあい収集」という名称で10月から地区を限定して実施するために準備をしている。

(荒木委員) 集団資源回収について、今住んでいるマンションは市長から2回ほど表彰を受け年2回補助金をいただいているが、これに対する補助金の市全体としての支出などのデータはあるのか。総額が分からないので何とも言えないが、市としても力を入れていると思うので、そこそこの金額がいろいろな形で出ているとは思いますが、場合によって、予算に行き詰まった場合はこれを廃止するという方策もなくはないと考える。元々紙資源も対象だったが、今は紙資源は資源とはいうものの、有料化ではないので金額も減っているとは思いますが、その辺りを参考にするために伺いたい。

(事務局) 令和5年度の集計としては4品目あり、ビン類が5トン、缶・金物類が124トン、紙類が2446トン、布類が149トン、合計で2724トンが、集団資源回収されている合計量となる。これに対して、市の方から奨励金という形で1キロ当たり7円を交付しているので、市全体では約2000万円弱の奨励金を交付している状況である。

(大河内委員) 資料の5ページ「4相模原市の予算」であるが、データを見ると令和5年度から令和6年度にかけてし尿処理費が倍以上になっているが、何か事情があるか。

(事務局) し尿を処理していた旧東清掃事業所の解体工事を実施しており、令和6年度は1年目の工事費として約3億を計上した。

(畑野真委員) 4ページの人口推移、5ページの予算の資料では、何を伝えたいのかが分からない。例えば清掃費の推移は令和2年が128億円で、令和6年が112億円で減ったとあるが、減った理由が分からない。また、市の予算の何%ぐらいが清掃費に使われているので、そのための議論が必要だということが見えてこない。さらに、8ページでゴミ総排出量があるが、減ってはいるがなぜ減っているのかよく分からない。計画目標については基本計画の中にも記載があったが、計画目標がなぜこの数字になったのかというプロセスもよく分からない。次の9ページもゴミの量が減ってはきているのが分かるが、なぜ減ってきているのかという分析もよく分からない。もっと減らすためにどうするのかというプロセス、結論的なものも記載がない。

そこから10ページの政令市における生活系ゴミ量比較では、今相模原市がこの辺りにいて1日あたりのごみ量を減らしたいという流れがよく分からず、ただ資料を並べているだけで何を訴えているのかというのがよく分からない。

この会議は今の相模原市のごみの課題として、最終処分場をいかに延命して使いこなしていくかということだと思うが、そのためにどうするのかというアプローチがない中で、いきなり13ページのような市民による4R推進と書いてあっても、何でこれに決まったのかがよく分からない。4Rの推進をこうする、有料化についてこうする、戸別収集でこうですと言われても、これでは課題とは何かが現状は分からない。

現状一番の課題としては、最終処分場を延命させたい背景の中から分析していくはずなのに現状と課題がミスマッチをしている。一対一になっていないような資料に思うが、それについてどうなのか意見を聞きたい。

(事務局) 今回の資料は、本市の廃棄物行政にかかる現状と課題ということで、基本的な部分を示しているので数字の羅列になっている。例えば、人口の推移というのは当然将来についてはゴミの量は減っていくと思われるが、その場合、清掃工場は今のままでよいかなどの話がでてくるが、それを明確にお伝えができていなかった。予算についても市の予算の中でどのぐらいというのはここでは見えにくい。

(畑野真委員) この予算は足りているのか。

(事務局) 予算については毎年必要な経費を計上しているので、その中でやって

いる。市全体で3000億円を越える予算のうち100億円なのでそれなりのボリュームがある。8ページのごみ総排出量の推移や10ページごみ量比較のデータについては、現状をお知らせするという資料であるが、最終処分場については令和19年で満杯になるという数字が見えている。

(畑野真委員) それは何で見えてきているのか、という話が後で出てくると思ったが出てこない。年々何十トンと増えていくので満杯になってしまうので頑張って減らすという考えにもなっていくが、全くストーリーが流れてこず最終処分場の話になっているので理解がしづらかった。資源の分別を推進したり、家庭ごみの有料化をすれば、ごみが減り延命化に繋がるというストーリーがあれば分かりやすかった。

(事務局) 今後はご理解いただけるような資料を作成したい。次回以降の改善とさせていただきます。

(大木会長) 13ページの4つの取組みとしている図の作り方に疑問がある。戸別収集の検討と家庭ごみ有料化の検討についてはこれから始めるところだと思うが、まだ一緒に並べられる柱になっていないと思う。むしろここに最終処分場の延命化を入れて、取組みをするという宣言をする方が分かりやすいと思うが、この記載であると家庭ごみの有料化と戸別収集は実現する方向で動いていると誤解されかねない。

(伊藤委員) 先ほどから相模原市の現状と課題ということでご説明いただいているが、基本となるのは廃棄物の処理及び清掃に関する法律からきていると思う。その法律の目的としてごみを減らそうということがある。第2条の4に国民の責務として市民もごみを減らさなくてはならないとなっている。その上で、自治体は啓発をして、ごみを皆で減らそうという建付けがあり、資料にごみが減ってきたという報告があったのだと思う。そして一定の成果があると捉えられた。しかし、自治会を代表して出席している立場として現状の課題のところで違和感を感じる。相模原市はごみを集積所に集めたステーション方式で回収をしているが、そのステーションには自治会が大きく関わっている。例えば、色々なところにステーションがあるが、苦勞して自治会の方たちが役割を担っている。それは集積場所を決めるのに自治会長を通して決めたり、カラスや猫などで汚れてしまったステーションを率先して綺麗にしているのは自治会の人たちである。そこは課題ではないのか。

今の相模原市全体の自治会の加入率は43%、市民の半分にも満たない組織が、ごみに関しては72万人全員の問題なのに自治会に担わせて

いるのはいかなものなのか。以前のように組織率が7割8割の時代であれば市民を代表している組織として理解ができたが、繰り返すがもう半分を切る組織率しかない組織に集積所の問題を背負わせているのはいかなものなのか。以前から制度疲労があったが、行政側がずっと目をつぶってきて、自治会にお任せしている。あくまで一例であるが、中央区で今まであったステーションについてお店ができるからやめてくださいという話があり、新しいところを探すのに街中が困ってしまった。そこで自治会が頑張り何とか道路の三角地帯に設置できた。自治会だけがステーション方式の割を食ってしまい、自治会に入っていなければ決められた場所に捨てればよいだけ。現状のステーション方式を続けるのであれば、このような問題をしっかり取り上げてほしい。また、今後どうすればよいのかということもこの審議会でも方針を決めていくということができればよい。

(大木会長) 自治会の基本として、皆で自分たちの住んでいるところを少しでも良くしたいという想いの中で活動をしていて、その一環でゴミステーションも綺麗にしましょうというのがある。戸別収集にした場合にステーションがなくなると考えている方が多いがそれは違う。戸別収集は家庭ゴミだけの話で、資源ゴミはステーションを使わざるを得ないという2極に分かれている点はまだ十分に検討されていないことが気になる。一遍に答えが出る問題ではないので、審議会の中で、皆の意見を聞きながら相談、検討をしていくのがよい。

(浅賀委員) 昨年度の審議会では、まだ審議会として答申のようなものは出さないという話であった。しかし、ここに至って、市民による4Rの推進、資源化の推進、戸別収集、家庭ゴミ有料化とはっきり出されると、そうなのかと思わざるを得ない。今後の予定も、ゴミの減量化という大義の中で、現実的には有料化、戸別収集とあるが、もちろん有料化は減量化ということに繋がらなくはないと思うが、市民から見ると増税ではないか。現在大変な暮らしをしている中で、本当にこの増税が必要なのか、ゴミの減量という大義の中でこれを実施していくのは間違いだと思う。

一方で、確かに温暖化の中で何とかゴミを減らしていくというのは国際的な流れではある。それを家庭だけに負わせるわけではなく、企業が生産者としてどのような製品をつくっていくのか。ゴミを減らしたいというのは、誰しも頭にあることだが、暮らしの中で消費者として企業がつくったものを選択してなるべく安いものを買いたいというのが今の動向である。有料化という増税をしていくことが、本当に市民の暮らしを

保障していくことに繋がるのかどうかを検討しないと安易に受け入れることができない。また、15%減量見込みとあるが、本当にそうであるのか。市は9.8億円の財源がほしいのか。

最終処分場の延命化はよくわかるが、今ステーションの問題も出ているが、自治会は高齢化の中で役割が担えないと辞めている方も多し。簡単に考えるのではなく、それぞれの地域の暮らしぶり、どのような方が住んでらっしゃるのか、そうした方々の暮らしを保障していくことが行政の大きな仕事ではないか。そうしたことを誤らないようにこれから色々な問題を議論させていただきたい。

(山田委員) 資料の8ページ9ページのところで、当初立てた目標値よりも十分達成できてきているという説明であった。9ページ目の数字の表し方は市民に示す取組状況にそのまま掲載されると思うが、十分目標が達せられたと終わってしまわないかを心配している。できるだけ減らしていこうと市民に訴えていきたいということだと思うので、9ページの左側の目盛り数字が420から580となっているがこれを修正したり、同じように10ページの目盛りも300ぐらいから600ぐらいにしたい。0から始まる数字であると、どこまでどう減らせばよいのか、これだけ減らしてももっと減らせということなのかというご意見も出てしまいそれは逆効果だと思うので、せめて目盛りを300ぐらいまで下げたグラフを作って、その下のところにコメントとして、「相模原市はこの状態だが他の政令指定都市を見るとこのような状況です」という一文を加えると、市民の方たちは、自分たちは頑張っているが、やはりもう一頑張りしたほうがよいと考える発信になると感じた。

(中島委員) 令和9年度の目標は、あくまで現在の基本計画における目標値であって、これが最終目標ではない。もっと高い目標を掲げるべきだと常々意見を申し上げている。

麻溝地区は現在の最終処分場があり、次の最終処分場の候補地にもなっているため、令和5年にまちづくり会議に最終処分場部会を設置し、その対応について協議している。昨年は市に要望書も提出している。要望書では、市内には最終処分場に適した場所がない中で、次の最終処分場は造らざるを得ない状況だが、その次の最終処分場は造らないことを求めている。そのためには、更なるごみの減量化が必要であり、埋立ゼロの実現に向けたロードマップを作り、その内容を令和10年度から始まる次の基本計画に反映してほしいとお願いをしている。津久井の候補地もそうだが、麻溝の候補地も本来は最終処分場にするような土地では

ない。こうした地元が大事にしてきた土地の中から次の最終候補地を選ばなければならないという状況を理解して、更なる減量化の取組を推進していただきたい。

有料化については、先行で実施している自治体の状況を見ると、15%程度の減量化を実現している。15%の減量化は容易にできることではなく、有料化をやらないとすれば、他にそれだけ減らせる施策があるのかという議論も必要になる。有料化は負担が増えるから反対ということではなく、ごみを減らさなければならないという状況の中で、他に取得手段がないということであれば、有料化も検討しなければならないと思う。次の最終処分場の候補地となっている地元の意見として伝えさせていただいた。

(2) 相模原市一般廃棄物処理基本計画 令和6年度取組状況について

事務局より説明を行った。資料の量が多いため、意見や質問については8月末まで受け付ける。

<質疑事項>

(浅賀委員) 私たちは消費者として商品を選択して買う立場である。資料でも市民の努力が中心となっている。現在、生産者や事業者がどのような考え方で商品をつくって提供しているのか、もっと事業者の現状や考え方を聞く場を設けていただきたい。

(大河内委員) 資料の16ページの組成分析調査で、食品ロスは減ったが資源化可能物が大きく上昇しているがどのように分析されているのか。29ページ不法投棄のところではなかなか件数が減っていかない中で、不法投棄される場所のトレンドの変化などはあるのか。その辺りの分析をされていたら伺いたい。

(事務局) 16ページのごみの組成分析について、まず食品ロスの減少に関しては、行政施策の浸透もあると考えるがその根拠となる数値は存在しない。物価高が続いている中で消費者物価指数がどんどん上がっているが、その中で特に食品に関する消費者物価指数の上がり方が顕著である。例えば4個入りの物が3個入りになったり内容量が60gから50gになったりなど社会的に物が高い、物が少なく食べ残しが減ったり、企業の賞味期限の考え方の見直しなども出てきている。定量的ではないがそういったところで食品ロスは減ってきていると考えている。一方で、プラスチックの消費に関しては、分別を進めている中ではあるがそれ以上に生活に便利なものが次々と浸透している。ごみ量は重さでは減り続けてい

るが、ごみを収集している人たちからは嵩かさが増えているという声がある。今まで袋を開けるとバラバラと入っていたものがコロナ禍以降は個別包装されているものも増えている。百分率で見ると何かが減ると何かが増えるということもありプラスチックが増えている。行政の方でも頑張っ
て取組んでいかなければならないので、以前の審議会の中でもお伝えしたが、法律で分かれている容器包装プラスチックと製品プラスチックを一緒に集める回収を来年度から実施していく。そこでプラスチックの分別の分かりにくさを払拭し、資源回収率が増えていくようにしなければならないと考えている。

2点目の不法投棄については、若干減少傾向にあると認識しているが、引き続いて不法投棄されてしまうというところは市内にも多数あると認識している。やはり人の目が少ないところ、旧市域であれば人家の少ないところ、津久井地域では山間部の道路際などが不法投棄されやすくなっている。自身の土地をしっかりと管理していくことが、不法投棄の防止に繋がることを地権者にお伝えしている。

7 その他

市民に対するごみ減量啓発に繋がる取組として、全22地区で行われているまちづくり会議において、廃棄物行政の現状と課題等を説明する機会を設けることを事務局より説明した。今年度中に全地区で実施予定。

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅賀 きみ江	さがみはら消費者の会		出席
2	荒木 保	公募		出席
3	伊藤 信裕	相模原市廃棄物減量等代表推進員		出席
4	内山 雅之	相模原市農業協同組合		欠席
5	大木 恵	相模原市自治会連合会	会 長	出席
6	大河内 由美子	麻布大学		出席
7	小倉 和也	相模原地域連合		欠席
8	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		欠席
9	中島 勝平	さがみはら4R連絡会		出席
10	畑野 真吾	公募		出席
11	畑野 栄久	津久井地域不法投棄防止協議会		出席
12	林田 裕之	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		欠席
13	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
14	福田 豊	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
15	藤倉 まなみ	桜美林大学		欠席
16	宮津 敏信	公募		欠席
17	三膳 節勝	相模原市老人クラブ連合会		欠席
18	山田 とし子	相模女子大学		出席